

全大会の記録

テーマ【学校と家庭・地域をつなぐ情報モラル教育について】

話題提供者の方

小平市立小平第二中学校学校支援コーディネーター

布 昭子様

世田谷区教育委員会 教育指導課 統括指導主事

樋川 宣登志 様

東京都小学校 PTA 協議会 会長

新谷 珠恵 様

モデレーター

USEC 教育・研究理事

平林 慶史

(平林 慶史)

情報化社会の中で、ただ学校と家庭と地域が連携するのではなく IT、ICT がどのように活用できるのか。

親御さんの多くはケータイを使うことが、当たり前として過ごして来ていない。そういう感覚が分からない中で、情報モラル教育を、どうやって学校がサポートして行けば良いのか。

家庭と学校だけではなく地域の教育力というのをどうやって情報モラルや情報リテラシーの育成に貢献できるのか。

以上の問題について自由に話し合ってみたい。

(新谷 珠恵)

ケータイについては、PTA では必要なければ基本的には持たせない。しかし、子どもたちは持っているのが現状です。子どもたちにケータイを持たせた場合には保護者はどうしたら良いのかが、まず一点です。

子どもを支援する方法には3つあると思います。1つは子どもの前に何か壁があったときその壁をとりのぞく。2つめは、その壁を低くしてあげる。3つ目は子ども自身にその壁を乗り越える力をつける。この3つの視点からの活動が必要だと思って活動しております。

ケータイに対する PTA としての要望と活動は、社会体制の整備、法整備、規制をかけて頂きたいということです。例えば、ケータイに対するシステム整備、相談窓口の設置、研修機会の提供、広く意識啓発活動の展開、等です。

企業や自主規制団体も実態はいろいろです。そういった企業に対して、もう一度話し合いをします。ケータイ各社には、安全性の向上、安全なケータイを開発して、販売して欲しい。コンテンツ会社に対しては、色々な監視をして欲しいということ、要望しております。フィルタリング会社には、使いやすく精度の高いものを開発して欲しい。また販売店はフィタリングを親にかけさせるとか、販売店として責務をはたして欲しいと要望しております。企業に対しては、優良企業、CSR に力を入れているところを積極的に評価し、支援しています。

保護者の意識啓発も必要です。教育力向上のための支援研修機会の提供をしています。最近の研修では、ヤフーさんやソフトバンクさんに協力して頂いて、ケータイの機器を使い、子どもの立場になって、実際に機器を操作しつつ学んでいく研修にシフトしております。

親に知っておいて欲しいのは、ケータイというのは子どもが夢を実現できる、何でも出来るツールだということ、1回顔写真を載せたら、世界中をまわって何十年経っても消えないこと、また、SNS やサイトで、子どもでも自ら情報を発信できること、知らない人からメッセージを受けることができること、などです。

そのようなとき、どうしたら良いのかというところを検証しております。また、東京都の協力を得まして e-ルール講座、家庭でルールを作る講座も開いております。

これからは、親に対して、わが子へのケータイの与え方とその時期について、投げかけて、科学的な研究データをもとに皆で考えていきます。今後どういう努力をしたらよいのか、成長段階に合わせたスキル、具体的な技術的なこと、基本的な人間としてのルール・モラルをきちんと育成していかないと、この世界の子どもは対処できないと思っております。

子どもに対する教育ですが、子どもに力をつける。これはメディアリテラシーとか、危機回避能力とかともいわれています。子どものパソコン・ケータイに対する知識と基本的な人間関係、コミュニケーション、道徳そういっ

たものを両面育てていかななくてはいけないということ。家庭でも一生懸命やるのですけれど、ケータイに安全なフィルタリングをかけて子どもに与えることを理解している親と、そのような情報がなかったり、意識がなかったりする親とに、親たちが二分化しています。そうすると、どうしても学校教育、社会教育の場で、親の能力いかに関わらず、セーフティネットとしての情報モラル教育を、学校教育として実施することをお願いしたいです。

(樋川 宣登志)

世田谷区では、学校非公式サイト対策委員会が昨年から立ち上がっております。非公式サイト、プロフ、ブログ、メールなど、おもに子どもたちの実態調査、実際のサイト上の検索調査などを行っております。調査で出てきたのは、5～6校を、3ヶ月くらい短期で検索したら、2桁ほどの子どもたちの書き込みがあると、いうことがありました。

ご存知かと思いますが、東京都教育委員会は東京都中の小・中・高のサイト監視をしています。何か見つかった時は、区のほうに教えてくれます。都からも夏休みなどは、結構、連絡が来ましたが、後で検索したら、また同じくらい書き込みがでてきました。しかし更にうちの後に行っても、まだ残っていると思うのです。そのうちの3/1くらいの物に個人が特定できるものがありました。写真や学校名や、さらに、名前がある。リンクをたどっていくところには校名がなくても、こっちは校名があって、こっちをたどっていくと苗字があって、こっちにバスケットと書いてあって、こっちに背番号があって、結局は、何中学の何部の背番号何番のなにちゃんの写真が載っている、と言うことまでトータルとして分かってしまう。その対策はどうしたらよいのかということで考えているところです。

子ども自身が自分で対処できる力をつけなくてはいけないという問題、そのような子どもの問題を学校と保護者がどう連携するのかという問題、それと実際のトラブル対応にどうするのかという問題、大体この3点に集約できるのではないかと思います。

一点目の子どもをどう育てるかについてですけれども、学習指導要領が新しくなりまして、情報モラルを身に付けるということが入ってきています。道徳で情報モラルを指導するそういった内容が入っています。実態調査をしたところ、教職員の、99パーセント、全ての学校で「インターネットによるトラブルがあるのだよ。そういうときにはこういうふうにするのだよと指導していますか？」という問いに対して、教職員の99パーセントは、していませんと答えています。さすがだなと思いました。一方、子ども達にも、「そういうことを学校で教わったことがありますか？」という設問に対して、50パーセントくらいがあると答えています。これはどちらも嘘じゃないと思うのです。それは学校現場では情報モラルという定期的な指導にはまだなっていないと思うのです。今考えているのは、教職員の研修で、情報モラルについての指導力をつけるというのを一つ企画しています。それに力を入れるために、対策委員会を作っています。何かを身に付けさせたいときは子どもの時期なのですね。それを皆に身に付けさせる最善の場としては、全員が集まる学校なのですね。そう考えたときに、学校には薬物乱用問題どうですか、環境問題どうですか、農業について理解を深めてくださいとか、警察、消防、税務署、農協、各種NPO団体がくるのですよ、その中で、何か継続だってやるというのは、世田谷は情報モラル教育を入れていくつもりですけれども、色々な市区町村で学校とかで、難しさもあると思うのです。

二点目の保護者の方との連携ですが、情報モラルについては、今までの子どもへの指導にほとんどは、薬害防止にしても、交通安全にしても、主には被害防止だったのです。被害者にならない為の防止このことに関してはもう半々でやっています。情報モラルは被害者と加害者になる可能性がある新しい問題です。とすると学校で対処すべきであると考えています。情報モラルについては保護者の方の勉強を図っていこうと思っておりますが、私個人的にこの問題が難しいと思うのは、今まで大人達は自分達が経験したことで、子ども達のトラブルをとらえていたと思うのですが、例えば、自分の息子が中学校同志の喧嘩に行くと、馬鹿なやつだ、でも考えてみたら自分もそんなことやっていたなと、うちの娘が勉強もせずにアイドルばかり追いかけている、馬鹿だでもお母さんもそういえばそんな時期があったなということで、気持ちが分かったり、指導していたりしたとおもうのです。情報モラルの問題については、大人には経験がない。経験がないだけじゃなくてこれから、一緒に経験して行く。もしくは、子どもの方が先に経験するかもしれない。そういったなかで保護者の方が、子ども達に指導する、教えて行くと言

うのは難しい問題です。

三点目のトラブル対応ですけれども、これについて東京都が監視をしていると、今、私の区でもそう言うところについて検討しているわけなのですが、私も検索してみました、あまり強いほうではなくアナログな人間なのですけれども、それでも、見つけられます。ただ、個人的な友達にそれを一緒にやってもらったら、全然見つけられる量が違うのですね、例えば先ほど申し上げたように、私が見てもなんでもないとこでも、リンクをたどっていったら、たどり着いてしまったりとか、例えば面白かったのは、ですね、私のこの樋川と言う字は木辺に通るとかのですけれども、これを分解して木通川と入れると、引っかけたりとか、あと、その中には沢山の隠語が隠されていて、なかなか理解できないと、そういう事があれば専門的な専門家のそういった監視システムなどは必要なのではないかなと思います。

(布 昭子)

地域の力が大事だということは、結論的には、保護者・学校、と取り除いたら、地域しか残っておりませんので、地域に何ができるのだろうと、私自身いつも悩みながら、現在文科省の事業に平成14年度から、学校支援地域本部事業に、関わっています。

まず、ひとつ事例としてご紹介したいと思います。先ほどから学校の教育力が下がったと色々なお話を聞いていますけれども、本当に今、学校の先生達は抱える課題というのは、多くなってきているなど、勉強を教えるだけでなく生徒指導はしなくてはいけない、保護者にも色々お話ししないといけない、従来の指導の話す内容だけでは、旨く行かなくなってきている。私もここ何年間か学校現場に関わっておりまして、職員室に机を置かせていただいて、ほとんどの時間を先生の、職員室に入るすがた、また職員室をでた外での姿、色々な姿を見ておりまして、先生方は本当に一生懸命がんばっているのだなと、ということが正直実感として思っております。

先ほどの情報モラルというところで、ここ数年前から取り組み始めた事例としては、いつも新入生の保護者説明会を12月ぐらいにやるのですね。これを管理職の先生と生活指導の先生と相談し、普通、新入生の保護者説明会というのは、決まりきった内容が多いのですが、今の親も忙しいのですね、入学式卒業式やでさえ来られないかも知れないという状況ですので、一回でも学校に足を運んだ保護者に対して何を情報提供していくのか、ケータイの問題、パソコンの問題、いじめの問題もあります。保護者に対して生活問題ということで、本校に来て頂いて、お母様方、お父様方、お爺様方、お婆様がたにも来て頂きながら、体験して頂きました。その結果それを3年間続けているのですけれども、中学入学前に、ケータイ機器に対する意識啓蒙というのは、我が学校では大分進んだように思えます。先生方も生活指導の負担も軽くなるわけですから、私も良かったなと思います。

小学校入学に関して小平では、新入生保護者説明会で、一番親が感心を持っている必要な情報提供ということで、そういう話を含め、どのようにして学校生活を過ごしたらよいかとか、色々なモラルと言うかマナーとかそういったものも含めて、話をしていくということをやっております。その積み重ねが、大分、中学にあがってきたときも、定着してきたかなと、思っております。あとはやはり保護者だけではなくて、保護者以外の大人の方が、意識を変えていかないと、こういう問題というのは解決しないのではないかなと言うのが、私の正直なところなんです。もちろん、大人でもきちんとしている方は沢山いますが、ややもすると大人が、どう子どもに対して良い姿勢を見せていくか、そこにポイントがあるのではないかなと、私自信は思っております。学校支援で私も放課後学習というのをやっているのですが、地域の方達に沢山勉強を教えに来て頂きます。その時に子ども達が、普段話さないような話を、第三の大人として家では話さないような話をするのです。ここに地域の良いこれからのモデルがあるのかなと思うのですけれども、地域は、色々な大人がいるのですが、子ども達にとって良い環境の大人が沢山いるほうが、大事なのではないかなと実感しました。もちろん、色々な大人を、知る事も大事なのですが、未成熟・未発達な子ども達にとっては、まず安全な大丈夫であろうと言う大人と沢山良い関わりをもっていく。そういうことを通じ、色々な価値色々な関わりの中でやって行ける事が、地域で出来ることではないかと思ひ私は日々取り組んでおります。

(平林 慶史)

情報モラル教育と言うのは、誰が一番の当事者なのかと言うのが微妙な問題なのではないかと思ひます。先ほど

私の方からまずは、家庭からと言うのを申し上げましたけれど、新谷さんのお話の中にもあったように、フィルタリングを取ってしまう親御さん、どんなに言ってもわかってもらえない方や、どれだけの保護者の方が、ケータイの問題ということに関して自分で教えなくてはいけないという当事者意識をもっているのかどうか。そして更に学校の先生としては、こういうことは家庭で、教えて欲しいのだよと思ってらっしゃるかと思うのです。ただ、セーフティネットとして学校で教育をしないといけません。そうなったときに、の担当の先生が、誰がこれをメインに担当するのか、この学校の情報モラル教育が低下したら、いったい誰のせいになるのか、私が今まで伺った学校の中でははっきりしてこなかった。そういうふうに思うのです、宜しければ新谷さんと樋川さんのほうにそれぞれこの問題に対する当事者意識についてお話頂ければと思います。

(樋川 宣登志)

責任を、押し付けあうのではなくて交換しあわなければならないというのは、ここにいらっしゃる皆様は御存知だと思うのですけれど、一切問題を、家庭・学校・地域だと押し付けあう現実があるのではないのかなと思っています。ただ、例えばこれは家庭の問題でしようということは簡単なのですけれども、学校というのは時代と共に常に新しい課題を、子どもに指導しなくてはならない。また指導しなくてはならない新しい内容というものは出てくるものだと思います。

ましてや、これからの時代と言うのは、10年20年30年サイクルだったものが、10年5年3年くらいで、新しく子どもに指導しなくてはならない内容がはいってくる。それを、セーフティネットって言って頂きましたけれども、間違いなくというほどの自信はないですけれども、みんなにできる。確実に出来るという意味では、学校がそこになっていかなければいけないと思います。やはり家庭ということになりますと、意識の高いご家庭もあれば、そうでないご家庭もありますし、そういういみでは、学校がという役割は大きいのではないかと思います。

(新谷 珠恵)

私は、基本的には親だと思います。色々な親御さんいらっしゃいますが、私は出来ると思います。なぜならば、自分の子が可愛くない親は絶対にいない。ほとんどの親は子どもは可愛いのです、愛しています、心配なのです。そこに気がついて、いかに今こういう問題が近づいているか、ということに気づいて頂ければ、絶対に、そんな無関心で子どもがどうなってもいいよという親はいない。しかし、そんな時にかぎって親と言うのは甘くて、家の子にかぎってとか、まさか大丈夫よ、やはりこれが多い。

実は小学校の保護者会で「いやー大変、うちの子がこれ持っていたの」「それは大変だ、何？どうしたの」「お金を持ってた、買っていたのよ。『どうしたの、どこからお金をもらったの』と子どもに聞いたら、『おじさんにもらったの。』『何処のおじさん？』と聞いたら、一般サイト、可愛い子ども用のサイトだった。」ということでした。そこでメールをやりとりしていて、高校生のカッコイイおにいさんだと思っていたら、おじさんだった、ところが、何かしたら犯罪なのですが、「お茶だけしよう、そしたら二千元あげる。」なんて言われ、「食べさせてくれて、お金もらっちゃった。」と言うのです。子どもなんてそんなものなのですね。更に、「手を繋いだら三千元。」そうすると、子どもって悪い事したと思わない。本当にその感覚は怖いのです。だから、基本的なところを育ていかなければならない。何か大変なことをされたと言うのは、氷山の一角、本当に細かいところでいんな事が、報告されています。

こういうことを本当に細かく分かっているのは親達。そういった事がわかってくると、皆さんは危機感を持ちます。今、警察の方とお話しますと、普通の子が、普通のサイトで会員として、「モデルになりたい」「えっじゃあ情報あるよ」「私の事教えてしまおう」とか、本当に軽いのです。そのハードルは高くしてあげないといけません。一般サイトなどで言うと、私が悪い大人だとすると、パートメールを沢山だします、あたりをつけてそうすると、少し、何人かのお子様返信してくる。「この子の好きなものはこれだ」と思うと、子どもは盛り上がる、そうすると、「そうそう私そうなの」「いや僕は沢山知っているよ、カッコイイお兄さんだよ」と言うわけです。どんどん盛り上がって、会って、一回会ってしまうと「これをばらすぞ」とか「写真を見せるぞ」とか、凄くその子が「嫌だ嫌だ」ということをいって脅迫する。本当に子どもというのはそんな時、言えなくなってしまうのです。本当に普通のお子様被害に合うというのが実態なのでこういうことを保護者が良くわかって、なんとかしなくてはと思っています。

私はPTAで保護者とのこういった教育が、広がると信じているのです。皆様のご協力をよろしくお願ひしたいと思ひます。

(会場から)

学校と家庭との連携が非常に大事だと思ひておりまして、書籍やサイトなどを見てもそれを訴えられるかたが多いと思ひますけれども、実際にやっておられる学校がいま少ないなと思ひておりまして、もし実際に行っている学校の事例など、ご存知でしたら教えて頂きたいと思ひます。

(樋川 宣登志)

確かに、あまり進んでいないと思ひます。ある例としてはPTA主催の研修会で、こういったことを取りあげたり、学校によっては、セーフティ研修といって警察の方に来て頂いて、様々な問題を子ども達に指導して頂く場があるのでありますが、保護者も一緒にいます。そんな中でやっていたり、細かいところでいえば保護者会等になるのですが、実際この問題について、どこまで学校が家庭と情報交換したり、お願ひをしていたりっていうと、データ等は無いですが、まだなかなか進んでないと私は感じております。

(新谷 珠恵)

学校が舞台なので、主催はPTAや学校で、地域警察が講師という安全教室。セーフティ教室は色々あると思ひますが、しかし、きっちりとした情報モラル教育は継続的にはないし、少ない。ところが、私たちはそれをきっちりやって頂きたいと思ひています。しかも科学的な知見、教育学をもとにしたものを導入して、継続的に低学年から入れていただきたいということを、私達はいつているのです。

もう一つ私達の言い分というのは、例えば小学校4年で初めてパソコンの授業があります。そこでパソコン持っていない子、携帯を持っていない子は、初めてパソコンやインターネットのことを知る。つまり、情報モラルに係る学習のスタートを切っているのは学校ではないかということです。子どもたちはそういった世界を、「あっそうなんだ」と驚きと興味で目で体験しますが、教師はインターネットについて問題点についてのよけいな指導はしない。それでいて「こういったことも出来ます。操作も出来る。家でやってらっしゃい」という。一部の子どもたちは、うちパソコンはない、買ってもらわなくてはということで、子どもがインターネットに興味を持ち、インターネットの世界を知る、触れる、最初の機会は実は多くは学校なのです。学校で未知の世界へスタートを切ってアクセルを踏むのに、ブレーキはかけない、それはおかしいのではないかと私たちは思ひます。

もちろん家庭もそうなのですが、学校でも、スタート切るときに情報モラルということで、この先こういうことがあるよ、こういうことには気をつけなさいよということを指導していただきたいというのが保護者の思ひなのです。ほとんどそれは、カリキュラムにないとか学習指導案に無いとか言われます、一応ネット情報のことは書いてあるのですが、各学校で行う段階で、先生方が、どういうふうになにを教えたら良いのか、もとがないといひます。熱心な先生は勉強してできますが、どの先生でもできるカリキュラム・指導法を周知することが大事です。安全教育は幅がひろいので必要だと思ひたら本当に考えて欲しいです。

(樋川 宣登志)

実は今小学校の一年生でも、コンピューターを使い始めています。設備の違いがあるから、全部とはいへませんが、その中で確かにスタートは学校になっているところはあると思ひます。さすがにそのときは、学校は指導しています。「何か面白い機械だね」と、終わる事はないのですが、ただ、それ以上の現実が、次々とやってくる、子ども達にそれが、なかなか押さえられないで、指導までにはなっていないと言うのは現実だと思ひます。

(平林 慶史)

学校支援地域本部事業でお付き合いのある学校で、福岡県の春日市の春日西小学校と言うところは、学校と地域とそれから、家庭の役割をきちんと、明文化しようということをされていらっしやいまして、コミュニティスクー

ルという形をとっているのですが、一般の学校とは少し違うのですけれど、家庭の7つの役割のうちの1つに情報モラル教育、特にケータイについてというのを含めていて、PTAのなかでもうこれは、やってくださいねと、これは学校、地域、家庭で話し合っていて決めているのですけれど、その話し合いの中でこれは家庭の役割ですというふうに位置づけているというところがあります。その役割ということで、PTAの方達が自分達の役割だと認識して取り組んでいるということを聞きました。ただ、若干そんなにお話を伺っていないのですけれども、それで、ではどこまでできているのかと言うと、新谷会長がされているような具体的に踏み込んだ活動はまだできていないということです。

(会場から)

地域コーディネーターを今年から始めたので、研究で世の中を知るという目的で、参加させて頂いております。先ほど、新谷さんがおっしゃられた、PTAの団体で法規制をかけてはとは、広島とか、大阪のようにケータイを持たせないというふうな法規制なのですが、どんな規制を申請したのか教えて頂きたいです。

(新谷 珠恵の説明)

私達PTAと言うのは直接政治には関わりません。ところが、国や東京都が条例を作るときに、その諮問委員会に入れていただけるのです。そこで、色々な意見を言う。それが、答申となって、行政が法案をかく、そういうシステムになっていますので、そういったところで、私たちはこう考えている、こうしてほしい、ここが困ると言う事をいっているのです。例えば、今回東京都青少年問題協議会に行きまして、都知事から諮問をうけました。インターネット、ケータイそれから児童ポルノの問題。それで私たちは、なんでこういうところが野放しなのか、こういう規制があるのか。コンテンツ会社、携帯会社、そういったところにもっと成果をあげるだとか、もし、こういったものにはこう、そういったものについてまで、条例として、必要なのではないかというものを具体的に言ってきます。来週素案というのが、オープンになると思うのです。具体的なことは言えないのですけれど、年内に答申が、東京都の場合は出ます。かなりつっこんだもの全国に先進的なものとなると思います。というのは、東京都は自負があります石原都知事が、東京が先進して全国をひっぱるのだと。地方は東京を見ていると言うところがあるのです。東京も現状に則していますので、もたせないとか、そんなこと言っている場合じゃない。現実に則していない。持ってしまった場合にどうするか。現実こういった社会こういった組織やり方、こういった現状こういったものが、発生したらどうするか。事業者責任、色々な大人の責任そういった事に対して、かなり言っていくと思うのです。それから、もう一つは、重要なもの優良なものは、きちっと支援していく。だから携帯所持を推奨するのではなく、良いものはきちんと評価し推奨する。子どもの安全のために努力する企業を支援する。このようなスタンスも、「駄目、駄目、駄目」ではなくて、そういったスタンスも必要であるという意見を、私は言うて出来ると思います。

(会場から)

先ほどおっしゃっていた、学校でのセーフティ教室だとか、警察が講師で保護者に対してなんですけど、第三小学校では本当に何回もやっていて、本当に聞いて欲しい親は全く集まらないので、どのような目玉をお持ちなのか知りたくて、皆が集まるための。

(布 昭子の説明)

そういう目玉があれば、全国の人が悩まないですむと思います。

まず、学校が伝えたい情報を必要な人に届けるということが困難な時代で、小学生まではまだ親に届きますが、中学になると親に伝えたくない情報は教室のゴミ箱に捨てていきますので、まず、親に届かないです。

では、親はどうするのかといいますと、親同士のネットワークでやっと知る、ということは良くありますよね。要はケータイを含めて、子どもの命を、安全を守るという視点において、私がこの学校支援のコーディネーターに関わっていて結構、工夫して来たのは、先ほどの、新入生保護者説明会もですが、中学生はとくに卒業前に性の問題について、専門家にきていただいて、講演会をやるというのは、これで四年間やっております。それをやるには

色々なハードルがありまして、教育委員会の指導課から色々なことがありましたけれども、すべてのハードルをクリアしまして、一番子ども達が、性の問題についても、ケータイ、インターネットからも、色々からんでくると思うのです。それをやる前にしたことは、保健の先生、学年の先生、全ての先生が協力して、いまだにというか、まだおしべとめしべが、とっている子もいまだにいます。これだけ色々な情報が氾濫していても、と思えばもう大丈夫よという子もいたり、その幅がすごく広いのです。今、その幅を埋めるのはどうしたら良いのかな、道徳の時間や色々な時間を活用して約一年間かけて積み上げていって、3月の一番高校受験も終わってもう考えなくても良いよと、いう時期にそういう講演会をやっているのですけれども、それはすごく好評を頂いておりまして、保護者並びに地域の人、学校支援に関わっている人達に、広く市報等で呼びかけて、学区問わず来て頂いております。そのことがきっかけで、ケータイや、関わる色々な、先ほどお話した、児童ポルノや、本屋さんに行って思いもかけない本がいっぱいありますけれども、普通の本を買おうと思って手にとってみたら、凄い事が、書いてあったり、今、沢山そういうことに関する意見交換が、すごく活発にできるようになっておりますので、やはりそういうことが出来るようになったのも、やはり学校支援という先生達だけでやるのではなく、保護者地域の意見を取り入れて学校の中で出来る事を実現していくという、ことがこのコーディネーターとしての醍醐味というか面白みというのかなというふうにして思っております。

やはり一番関心のある話題を、やるのが皆さんに足を運んで頂く、人数が少なくても良い物をやると、必ず来年も行きますのでといわれますので、最近はその人達の名前と電話番号を私は聞くようにしています。必ず来たいという人は逃さないという素晴らしい力というのがボランティアさんにあるので、またそういう口コミが一番良い評判を呼ぶので、やはり良い内容を展開していくのが大事なのではないかなと思います。

(新谷 珠恵の説明)

考え方を変えないといけないと思います。その会を行い、誰が来る、誰が来ないというのも、そんなの良いのです。それはしょうがない。「来る親が居る」、そこがポイント。ではどうするのか、私達に取り組んでいるのは、来る親とPがコア、コアが居れば良い。パーソナルネットワークで、来ない方、本当に孤立している方でも、子どもつながりで、絶対に繋がりはあるのです。ですから、パーソナルコミュニケーション＝インフォーマルなつながりにどうつなげていくか。危機感や、先ほどお話した子どもへの愛がある。他にこの方も大きい会には、行かないけれど絶対にわかる。ということでやっているのです。そういったときにまた、PTAの組織を使うとすると、学級委員というのがある。「来なかった親御さんには知らせてくださいね、保護者会にこんなことがありましたよって知らせてください」と言っているのです。そういう繋がりでも情報は入る。そうすると大きな会にこなくても、興味がなくとも、そういった仲間にはいれば、だんだんわかってくるし、繋がろうとする、情報がほしい、そういった色々なインフォーマルな繋がりで使いながら、意識啓発をしていくということが、今これから必要ではないかと思えます。会に来る、来ないということはこだわらない、というような現状に則したものが必要だなと思えます。

(会場から)

今、うちの中学でもケータイサイトを作りました。来ない親や手紙を持ち帰らない子どもには、親の方からかなり要望がありまして、ケータイで見たいという。そういう意味ではとても便利な物なので、無くすというのは間違っていると思うのですけれども、使い方しただなと思っております。

(平林 慶史)

地域という中から調査をおこなった結果、PTAはどうしてもお母さん方中心になりますので、地域というかたちで、いろんな方を巻き込んでいくには、町内会だとか親父の会だとか、例えば夜間パトロールと一緒にやろうと声をかけて夜8時、9時から、子ども達がたまっているところを練り歩く。練り歩くといっても実際懐中電灯を持って歩くということなのですけれども、そういうところで情報交換をしたりも実際あるようですので、必ずしも講習会であったりということにこだわらずに、親御さんであったり、地域のネットワークをまさに新谷さんおっしゃって頂いた、ネットワークがどんな点についても生きてくると思えます。こういう調査に関わらせて頂いて一番感じるところです。